



東地中海地域ニュース

イラン情勢(15) : 7月3日~6日

研究員 山崎 和美

最高指導者が西側諸国の「内政干渉」を批判し、EU は英大使館職員拘束の問題でイラン大使を呼び抗議するなど、相変わらず緊張は続いている。一方、改革派のムーサヴィー元首相は選挙不正疑惑で報告書を公表し、新政党結成を計画すると伝えるなどの新しい動きを見せ、聖地ゴムのイスラム法学者からなる団体も大統領選批判の声明を出すなど、抗議の動きも続いている。

7月3日

護憲評議会：英大使館現地職員を訴追

イラン護憲評議会事務局長のジャンナティー師は3日、大統領選後の騒乱に關与したとして逮捕した在イラン英大使館の現地職員について、訴追する見通しであることを明らかにした。

EU：英大使館職員拘束受け、イラン大使呼び抗議

欧州連合(EU)加盟27カ国は3日、在イラン英大使館のイラン人職員が当局に拘束されたことを受け、各国駐在のイラン大使を呼び抗議した。

7月4日

保守系紙：国家反逆罪でムーサヴィー氏訴追を要求

4日付の保守系紙ケイハーン紙は論説記事で、大統領選で不正が行われたとして抗議デモを呼び掛けた改革派のムーサヴィー元首相について、「暴動の扇動や外国勢力との協力」の責任があるとし、国家反逆罪で訴追するよう主張した。

7月5日

イラン大統領：オバマ米大統領に「交渉」提案

イランのアフマディーネジャード大統領は4日、今年の国連総会に参加した際、オバマ米大統領を国際メディアの取材陣を前にした「交渉」に招待したいとの考えを示した。

ムーサヴィー氏：選挙不正疑惑で報告書、新政党を計画

イラン大統領選で敗北した改革派元候補、ムーサヴィー元首相は4日夜、ウェブサイトを通じ、再選したアフマディーネジャード大統領が選挙戦で政府機関の権限を乱用したなどと選挙の公正さに疑問を呈する報告書を公表した。

イラン大統領選で敗れたキャッルービー(カルビ、キヤルビ)元国会議長に近い改革派

紙エッテマーデ・メッリー(Etemad-e Melli)は 5 日付の紙面で、ムーサヴィー元首相が保守派政権のけん制を狙い、新政党の結党を計画していると伝えた。

米紙記者を釈放

6 月 23 日からイラン当局に拘束されていた米紙ワシントン・タイムズのギリシャ人記者が 5 日、釈放された。

7 月 6 日

英大使館職員 1 人を解放

英外務省は 6 日、拘束中の在イラン英大使館の現地職員 1 人が解放されたと発表した。これにより、当初拘束された 9 人のうち 8 人が解放されたが、残る 1 人は訴追されており、英政府は解放に向け引き続き圧力を掛けていく構えだ。

聖地ゴムのイスラム法学者たち：大統領選批判の声明

イラン大統領選後の混乱をめぐり、イスラム教シーア派聖地ゴム(コム、クム)のゴム神学校のイスラム法学者らが構成する団体が 4 日、選挙に不正があったとの見方を示す声明を出した。現職のアフマディーネジャード大統領が圧勝した裏には政府の圧力があつたと、強い調子で指摘した。さらに、選挙監視要員の立ち入りを票の封印後まで認めない投票所が多かったとも言明した。敗れた改革派のムーサヴィー元首相らについて「権利が侵害された」とも述べている。ムーサヴィー氏を支持した保守穏健派の重鎮ラフサンジャーニー師も同日、イラン労働通信を通じ、「良識をもって判断すればこの結果に満足できるはずがない」と述べるなど、イスラム法学者らからの批判的な発言が相次いでいる。

英仏首脳：大使館員拘束に関しイランを強く非難

ブラウン英首相とサルコジ仏大統領は 6 日、イタリア・ラクイラでの主要国首脳会議(サミット)を前に仏エビアンで会談した。会談後の共同記者会見で両首脳は、イランによる英大使館員拘束を強く非難した。イランが外交官拘束や追放を続ける場合、欧州連合(EU)全体が結束して対応すると警告した。

イラン最高指導者：西側諸国の「内政干渉」を非難

ファールス通信によると、最高指導者ハーメネイー師は 6 日、首都テヘランで演説し、「西側諸国によるイランの内政干渉は明らか」と断言し、イラン国民を「暴徒」に仕立て上げたのは米国と欧州の報道機関だと非難した。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799